

市長コラム

～未来への架け橋～

Vol.111



鮮やかに色づきを増した野山の紅葉やたわわに実ったりんごが秋の深まりを感じさせ、実り豊かな収穫の秋となりました。

さて、10月1日から、国の緊急事態宣言等が全面解除となり、新型コロナウイルスの感染状況はようやく落ち着きを見せ始めています。当市においては、市民の皆さんのご協力により、新規感染者数が8月に引き続き9月も県内10市で最も少ない状況となりました。10月からは公共施設の利用制限やイベント等の自粛を解除し、通常の生活を取り戻しつつあります。しかしながら、感染リスクがなくなったわけではありませんので、気を緩めることなく、引き続き感染防止対策の徹底をお願いいたします。

★金木観光物産館の愛称が決定！

令和4年4月のリニューアルオープンを目指す「金木観光物産館」の愛称が「産直メロス」に決定しました。

愛称の公募には多くのご応募をいただき、誠にありがとうございました。

「産直メロス」の「メロス」は、文豪太宰治の代表作「走れメロス」から引用したもので「金木らしさ」と「メロスの力強さ」を表現していますが、頭に付く「産直」という言葉にこそ、この愛称の大きな意義があります。

「産直」とは、単なる「産地直送」や「産地直売」ではなく、生産者と消費者の「顔」が見える「産地直結」という意味があり、地域に根ざした交流を継続的に続けることで相互理解を深め、お互いの「顔」が見える関係で、生産者（出荷者）と消費者が持続的な関係を築くという理念があります。「産直」というワードに込められた思いこそが、生まれ変わる金木観光物産館の本質であると思っています。

おみやげやレストランなど観光客をターゲットにしたコンセプトから思い切った方針転換をし、金木地域の振興策の切り札、活性化の起爆剤とするべく「産直メロス」のオープンに向けて、全力で取り組んでいます。

金木地域は、山菜や加工品など地元女性が中心となった「生業（なりわい）」が多い地域です。「産直

メロス」を拠点に、こうした地元の生業を活かし、地元ならではの農産物や加工品、手作りの品々などを持ち寄り、販売し、そして、そこに集う方々の笑顔や活力、賑わい、地元の人々の連帯感が生まれることこそが、目指すべき姿であると思います。そしてまた、訪れる方々に、地元の「人」や「農産物」に触れ、そこから地域の魅力を肌で感じてもらう、それが私の願いであり「観光」の原点であると考えています。

新たに生まれ変わる「産直メロス」が、地域に愛され、地域住民一人一人が主役となって、皆さんの手で育て上げていただき、その名にふさわしいより魅力ある施設になることを願っています。

また、現在、「産直メロス」に自慢の農産物等を出品したい方をサポートするため、金木交流プラザ（津鉄金木駅）2階に「出荷者相談窓口」を設置しています。すでに約50の団体、個人の方々にご参加いただいておりますが、より多くのお申し込みをお待ちしていますので、お気軽にご相談ください（今月号3ページ掲載）。

★新作大型立佞武多『暫』が初出陣！

10月9日、「五所川原立佞武多 秋の陣」が開催され、新作大型立佞武多「暫」が初めてお披露目されました。

入場制限や受付時の検温、手指消毒など、観覧いただいた方には大変ご面倒をお掛けしながらの開催となりましたが、しっかりマナーを守っていただき、成功裏に収めることができたものと思っています。この開催が実現したのは、これまで市民の皆さんが感染防止にしっかりと取り組んでいただいた、たまものであります。

今回のイベントを機に、地域社会経済が再び元気を取り戻せるよう努めてまいります。



「金木観光物産館」の愛称決定「命名者記念品贈呈」の様子



『五所川原立佞武多 秋の陣』の様子